



ごあいさつ

令和最初の新年を皆様には、穏やかに迎えられましたこととお慶び申し上げます。とはいえ、昨年末から新年にかけて無雪であり、南魚沼市の経済においては大きな打撃を受けている状況であります。しかしながら、十二支は一回りし、最初を迎える本年は、心機一転、新しい可能性が開ける年であると思います。また「ネズミ算式に増える」という言葉があるように、更なる繁栄が期待できる年でもあるでしょう。加えて56年ぶりに開催される東京オリンピック・パラリンピックと明るく、希望が持てる年と言えるのではないのでしょうか。

私においては、2年間務めました総務文教委員会副委員長から、この度、社会厚生委員会副委員長に任命されました。新年にあたり私も心機一転、激しく多様な変化に柔軟に対応し、これまでの固定概念を崩し、新しい価値観をもって事に臨む決意であります。また、「ねずみ」は、「働き者」というイメージがあり、「寝ず身」という当て字があるほどです。そんな子年ですので、「骨身惜しまず働きます」ので、皆様からのご意見やご要望等々、小さなことでもご遠慮なく、いつでもお寄せ下さいますようお願い申し上げます。皆様にとりまして、この一年が幸多き年となりますようお祈り申し上げます。

12月議会において下記の一般質問を行い、皆様のお声を市政にお届けいたしました。

◎質問と答弁は以下の通りです。(一部抜粋)

右のQRコードをスマートフォンなどで読み取ると、一般質問の録画映像がご覧になれます。



一般質問

『防災対策について』を質す

市長答弁

「自主防災組織の強化

～自分たちの地域は自分たちで守るという思いが大事」

台風19号における市の対応を時系列に整理すると、

- 10月12日午後2時に自主避難所を市役所本庁舎、塩沢公民館、大和公民館の3か所に設置。午後5時に湯沢町に土砂災害警戒警報、南魚沼市大雨洪水警報が発令。
- 午後6時に塩沢地区中之島橋観測所で水防団待機レベルから氾濫注意水位を超えたため災害警戒本部設置。
- 午後7時15分災害対策本部に切り替える。
- 午後7時30分魚野川が氾濫危険水位を上回り塩沢地区流域の一部に避難勧告発令。それに合わせて避難所4か所追加。
- 午後9時に魚野川坂戸水位観測所が氾濫危険水位に近づいてきたため、避難勧告発令区域を塩沢地区に追加。
- 午後9時30分に六日町地区に避難勧告発令。避難所3か所追加。
- 10月13日午前1時、坂戸橋観測所で氾濫危険水位・氾濫注意水位をわずかに下回る。中之島橋観測所では氾濫注意水位をやや上回っている状況。
- 午前6時、中之島橋観測所、坂戸橋観測所で共に氾濫注意水位を下回るが、水防団待機推移は上回っている。
- 午前8時に中之島橋観測所、坂戸橋観測所で共に水防団待機水位を下回る。
- 午前8時51分に信濃川河川事務所と新潟地方気象台の合同発表で魚野川氾濫警戒情報が解除。

それを受けて午前9時に市内で発令していた避難勧告を解除。なお避難所は、深夜0時が最大で557名の市民が避難。午前6時現在では避難者は178名で、午前6時45分以降は避難者が0名となったところで随時閉所。

目黒 災害警戒本部設置から災害対策本部を設置した市の対応はどうだったか。

市長 群馬県境を中心とした魚野川上流域の300ミリを超える雨量と魚野川の水位上昇から、大規模な災害が発生する恐れがあった。よって対策が必要であると判断し、まずは対策本部を設置した。その後、対策本部では魚野川の水位変化を中心とした各種の警戒情報の把握に努めた。

目黒 設置した本部機能はどうだったか。

市長 対策本部の機能は果たしたと考えている。国、県などの関係機関との情報連絡、南魚沼警察署からはいち早く本部に常駐、更に県警の機動隊もすぐに飛んで来た。加えて装甲車で自衛官と自衛隊も駆けつけ、常駐といったバックアップ体制が素早く確立出来た。また新潟地方気象台長からのホットラインも結ばれ、加えて、昨年の西日本で大変大きな問題となったダムオペレート問題。雨が降り始めるころから、国土交通省三国川管理事務所長と連携した。素早く組織が整え、なおかつ正確な情報得ることが出来たので状況に合わせて的確な判断が取れた。

目黒 対策本部での指揮は、状況に合わせて即断即決し対応していかねばならない。それは想定される先を読んで対策を打っていくことが重要である。今回は、午後2時の自主避難所を設置した段階で、災害警戒本部を設置し、避難準備情報を発令する。そして暗くなる前に避難勧告を発令した方が良かったのではないかとと思うが。

市長 今回の雨の降り方が、非常に判断にあぐねる状況で、その時点でまだ避難情報を発令するかという判断に微妙なところであった。また夜間に水位が急激に上がったため避難勧告に一気にいつてしまったという状況にあったということをご理解いただきたい。

目黒 しかし今回は、数日前からJRの計画運休をはじめ、全国的に警戒態勢がひかれていた状況であったのではないかと。

市長 結果的には、その時点でどう決めて、注意を促しておくことが最善だったと思う。

目黒 災害時には、一番の主眼は情報伝達が重要であるがどうであったか。

市長 状況情報や避難の勧告、それから避難所情報等を呼びかける広報車活動が出来なかった。それから災害対策本部からの役所庁内の情報伝達と共有、またFMゆきぐにからの放送内容も大きな検討課題である。

目黒 今回の情報伝達は、FMゆきぐに、LINE、メールで発信をしたが、市民には伝わってなかったと思うが。

市長 伝わりにくかったという評価もあり、ラジオでやってくれたので良かったという評

価もあった。私は一番がラジオであると考えている。今、ほとんどの方が携帯を持っており、そこから聞き取ることができる。大事なことは、市民が自ら情報を得る手段を心掛けておく必要があると思う。

目黒 しかしスマートフォンを持っていてもラインで情報を見る、メールで情報を見る、あるいはラジオで聞くという操作が出来ない高齢者も多いと思うが。

市長 防災の役員や区長には、自動起動装置のついたラジオを渡してあるので活用して欲しい。

目黒 自主防災組織長や区長、そして役員は実際、どのように動いたら良いのか戸惑いもあったかと思うが。

市長 自分たちの地域をもう一回見つめ直し、あらゆることを想定し、考えていかねばならない。やるべきことは様々あると思うが、行政からの指示や提案ではなく、まずは皆さんの意識の持ち方が大事である。

目黒 当市における自主防災組織率は非常に高いが、各行政区によってレベル差が生じていると感じる。その差を埋めるために行政が手助けする必要があると思うが。

市長 日ごろから顔と顔とがわかる地域の付き合いづくりが重要である。そういったことを行政に任せられても、それはできません。

目黒 各行政区には、担当職員がついていると思うが、その担当職員と区長との連携が取れていないのではないかと。

市長 各行政区ごとには決まっていはいない。方面隊で担当割はしてある。連携が取れていない地域もあるかもしれないが、担当職員がいるからといって機能しません。地域防災です。

目黒 今回の避難勧告が夜間であったため高齢者や要介護者あるいは障がいの方への判断や対応が難しかった訳ですが、行政から民生委員へ連絡し、指示を出すことはできないものか。

市長 要配慮者のリストは区長に渡してありますが、個人情報のため、非常に厳格に扱っている。現在、民生委員は全員で142人であり、1行政区だけでなく、複数区を担当している民生委員もいるため頼ることはできない。

目黒 市民も自らの安全確保をどうしたら良いのか理解していないと思う。新しくハザードマップを作成したが、全戸配布と各地域1回ずつの説明会では市民へは浸透しないのではないかと。

市長 説明会もこれで終わりではなく、事あるたびに、災害への意識が高くなっているのでも、それぞれ活動を活性化していきたい。

目黒 外国人の在住も増えてきている。日本語のハザードマップも含め、外国人に対して今後どういうふうな体制を整えていくか。

市長 避難所も全て日本語であり、今後は重要な課題であり、本気になって対応を考えていく。

目黒 災害に対する今後の取り組みは。

市長 災害に対する対応として、まずは的確な情報収集。そして、市民との危機感の共有。市民への避難勧告等の的確な発令。これをはじめとして、さまざまな取り組みがある職員体制については、その災害の規模によって変わってくるが、過去の災害経験に基づいて事象ごとに職員の非常時の参集基準を定めておき、避難所の開設や要配慮者対応等の想定される業務等必要な体制を整える。また大和地区の多間橋の水位計の精度を高める必要があると感じた。

しかしながら、災害発生時に行政が実施できる公助の部分には、どうしても限界がある。

災害発生前に動き始めることが一番。初動は自分自身と地域である。自主防災組織にもう一度重きを置いて、ここをしっかりとやるべき必要があり、そうでないと今の地域社会は守れないと思う。

目黒 防災対策はこれをやったら大丈夫とか、ここまで対策を取っておけば大丈夫といったゴールがない。大事なことは、市民ひとり一人の防災意識と危機管理である。そのためには防災意識を高めることと地域の防災力を高める啓発活動をしていくことではないか。行政と市民が同じ意識にならないことには、やはり情報もうまく伝わらないと思う。今後の防災対策についての展開を期待している。

裏面へつづく→→→

～「自らの命は自ら守る」そして「自らの地域は自ら守る」～

災害による被害を最小限に抑える（減災）ためには、「自助」・「共助」・「公助」の連携が重要です（図1）

- 『自助』…自分の命は自分で守る
- 『共助』…自分たちのまちは自分たちで守る
- 『公助』…県・市町村などの行政や防災関係機関による救助・援助等

本年で阪神・淡路大震災から25年となりました。この震災の教訓から地域防災力の中核である自主防災組織の重要性が言われるようになりました。

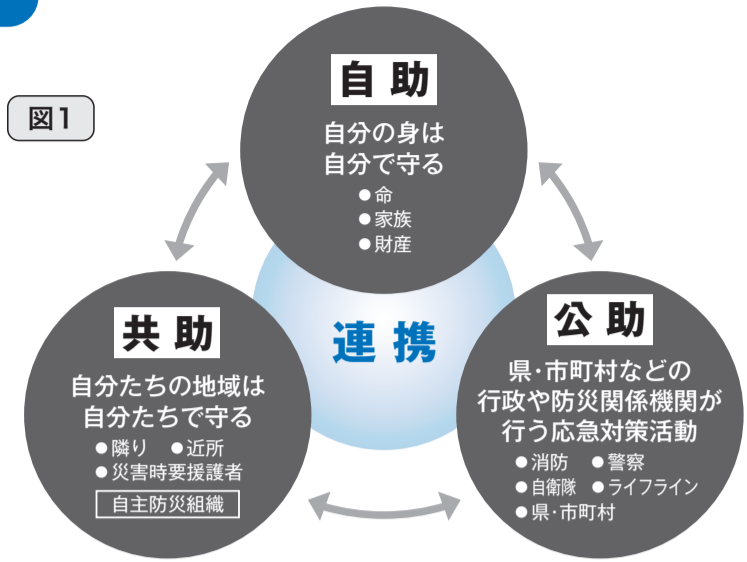
自主防災組織とは、住民一人一人が「自らの命は自ら守る」そして「自らの地域は自ら守る」という考え方にたって自主的に防災活動を行おうというものです。

なぜ自主防災組織が必要なのでしょう？それは、大規模な地震や集中豪雨による浸水の場合、被害が広範囲におよび、道路の寸断や交通渋滞、通信手段の混乱などから、市町村や消防署だけの力では、十分な防災活動ができないからです。また、行政が住民に対して様々な点で対応が可能になるまで数日ほどかかると言われております。

しかし、地震により生きたまま倒壊した家屋の下敷きになった健康な人も地震後3日を過ぎると生存できる確率が激減していくということが、過去の地震災害において明らかになりました。また、市街地の浸水においても逃げ遅れにより亡くなったり、孤立する住民もあらわれており、地域住民の事前避難を強く促す必要があります。

このように地震をはじめとする様々な災害が起こったとき、災害発生前や発生後に活動を行うための地域に密着した組織づくりが必要になる訳です。

近年は地球温暖化に伴い、かつてない激しい集中豪雨等、繰り返し襲う可能性があります。日々の生活と災害とは背中合わせであることを念頭に置いて地域にあわせた自主的な防災活動を少しずつでもよいので、できることから始めてみましょう。その中から地域にあった自主防災組織の活動スタイルができてくるはずで、まさに自主防災組織は地域のみなさんが産み、育てる組織といえるでしょう。自主防災組織づくりは、まさに地域づくり・ひとづくりであります。



- Q1. みなさんの地域で、過去に発生した災害や地震時、風水害に気になるところを把握されていますか？
- Q2. みなさんのお住まいの地域の避難場所の位置は把握されていますか？また、その避難所の収容人数や災害時にも使える機能、高齢者のための設備（畳や暖房など）があるか把握されていますか？
- Q3. みなさんのお住まいの地域に災害時要援護者がどこに、何人いるか把握されていますか？また、災害時その方々をどのようにして避難させるのか事前に話し合っていますか？
- Q4. みなさんの地域で災害時に有効な場所や防災活動、災害活動にとって有効な資源（モノや人）がある場所を把握されていますか？
- Q5. みなさんは俗にいう防災グッズにどのようなものがあるかご存知ですか？

上記の答え探しをする活動そのものが、自主防災組織の活動です。

活動報告

1 講演会を開催しました

私が主催しました「南魚沼の未来を考える講演会～農業と移住定住～」に、80名程の皆様からお集まりを頂き、誠にありがとうございました。中でも奈良県から8名の皆様もご参加下さいました。

いま、話題のライフスタイル「半農半X」がここ数年注目を集めています。1990年代に提唱されたこの生き方は、自給規模の「農」と「生きがいとなる仕事=X」を両立した生活のあり方です。兼業農家とは似ているようで異なる新しい概念であり、それが今、市民農園や家庭菜園など、「農」への関心の高まりとともに、社会全体で注目されています。



講演頂きましたライブドア元社長で再生請負人とも言われる平松庚三氏（左）と群馬県みなかみ町の農家で、これまで米のコンクールで数々の賞を受賞し、「神様」とも讃えられる本多義光氏（右）群馬県みなかみ町の平松氏自宅にて。

半農半Xを提唱しました塩見直紀氏曰く、農業は、「センスオブワンダー」自然の神秘さ不思議さに目を見張る感性だそうです。この講演会で新たな気づきや感性が磨かれる機会となりました。

2 災害ボランティアに行ってきました

台風19号による記録的な大雨で、長野県千曲川が決壊し、甚大な被害をもたらしました長野県長野市に災害ボランティアに行ってきました。広範囲に被害が広がっており、被災された方々は生活の基盤を奪われ、未だ先の見えない不安を抱えたままです。一日も早い復旧復興をご祈念申し上げます。



3 テレビ局に坂戸山を紹介

中心市街地から近くにある坂戸山は一年中を通して登山が出来、多くの市民に愛されているとの情報でUX新潟テレビさんが取材に来ました。当日はあいにくの雨模様でしたが、高林梢絵アナウンサーとチャレンジ坂戸山メンバーと共に頂上まで登りました。



4 花角知事後援会発足

花角英世新潟県知事後援会が南魚沼地域で立ち上がりました。県との連携を強固にして地域の発展につなげていきます。



5 稲田議員に地域の課題を報告

自由民主党六日町支部50周年記念大会において記念講演をして頂きました自由民主党 幹事長代行 稲田朋美氏をアテンド致しました。しっかりと地域の様々な課題をお願い致しました。



6 南雲教育長ご退任

2期7年にわたり南魚沼の教育をリードしてこられました南雲権治教育長がご退任され、後任に岡村秀康氏が教育長に就かれました。

